

男女共同参画推進連携会議 企画委員会 議事概要

1. 日 時 : 平成29年9月13日(水) 10時～12時
2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館5階共用C会議室
3. 議 事 : (1) 最近の男女共同参画の動きについて
(2) 男女共同参画推進連携会議の今後の活動について
(3) その他

4. 出席者 :

(有識者議員)

明石議員、秋好議員、飯田議員、和泉議員、犬塚議員、大石議員、大崎議員、大津議員、上林議員、徳倉議員、林議員、松永議員、室伏議員、山屋議員

(事務局)

武川 内閣府男女共同参画局長、岡本 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、岡田 内閣府男女共同参画局総務課長、符川 内閣府男女共同参画局男女共同参画推進官、大川内 内閣府男女共同参画局政策企画調査官

5. 議事概要

(議員自己紹介について)

各議員より、自己紹介を兼ねた挨拶が行われた。

(最近の男女共同参画の動きについて)

資料1に基づき、内閣府岡本審議官より報告があった。

(男女共同参画推進連携会議の今後の活動について)

資料2に基づき、事務局より説明の後、チーム活動について意見交換を行った。

議員からの主な意見は以下のとおり。

<1>次世代への働きかけチームについて

- ・前期の本チーム活動の最終回において、大学生に来てもらい現場の声が聴けたのはよかった。IT やテクノロジーに関しては子供の方が習得が早く、子供だけで新しい社会が出来上がっていたり、若年層のニーズに合わせて起業もしやすくなってきていたり、女性と男性の関係も変わってきている。今期のチーム活動においても、当初から若い人からそのような話を聴ける機会を設けてほしい。
- ・熊本地震をきっかけに、農家の子供たちが合宿をし、経営や理念まで子供たちが考える「リトルファーマーズ養成塾」を実施した。本チームにおいても、小中学生自身に考えてもらうような機会が作れるとよい。
- ・WAW!2017が11月1、2日に開催され、今年もユースセッションが行われる予定である。チームにもフィードバックし、また、連携できるとよい。
- ・前期のチーム活動において、地方自治体における男女共同参画に向けた若年層への働きかけに関する取組事例を事務局で収集いただいたが、NPO 法人や民間企業の取組事例も収集・共

有できるとよい。

- ・エンターテインメントと連携すると効果的である。「女子力が高い子はどんな子?」「アナと雪の女王の主題歌『Let it go』の歌詞のどこに価値を見出すか」といったテーマを取り扱ったイベントは盛況であった。また、9月29日に公開予定の映画「ドリーム」は、宇宙飛行計画に取り組む優秀な黒人女性と素晴らしい男性リーダーが描かれており、こういったものをテーマとして扱うことも有効である。
- ・パンフレット「ひとりひとりが幸せな社会のために」があるが、小中学生向けのものも作成したい。
- ・現状、男女共同参画に関して、10代の人がアクセスして、わかりやすいような情報がないため、そのような情報を作成し発信できるとよい。
- ・アメリカ大使館の主催で「Go Girls！プログラム」という女の子のためのリーダーシップ講座があったが、日本の大都市圏でもそのようなものを開催し、それを可視化できる媒体に変えて、全国からアクセスできるようになると横展開ができて効果的である。
- ・男の子が男女共同参画について学ぶ機会があまりない。学校教育の段階から働きかける必要があるため、文部科学省との連携をすべきである。
- ・学校教育現場においては、教員、特に管理職がジェンダーにしばられているケースもある。教育する側のあり方に対してどういう取組が必要なのか検討すべきである。
- ・個人のライフコースの中でジェンダーの問題に一番直面するのは、就職し、社会に出た後や、結婚、妊娠、出産を迎える時だと思う。学生時代に男女共同参画の教育を受けても、いざ社会に出た時のギャップが大きい。女性のキャリア志向について調べたところ、入社1年目は高かったが、2年目に大きく低下したという調査もあった。企業等においても男女共同参画の現状に危機感を持ち、次世代の男女共同参画の意識や、キャリアへの意欲を理解していただく必要がある。次世代への働きかけ、経済分野における女性の活躍促進の両チームで連携して取り組めるとよい。
- ・周りにいる起業家は、親、近所の人など身近な人が起業家だから起業した、という人が多い。そのため、本チームにおいても、次世代本人だけに働きかけるだけでなく、親、先生、教師等の次世代の身近な人の価値観を醸成することが重要である。
- ・次世代の人達だけを集めて、当事者だけで考えてもらう機会を与えるのも当事者意識をもってもらえて効果的であると思う。
- ・大学生から、母親が専業主婦であり周りにロールモデルがいなかったため自信が持てないといった声も聴く。そのため、ロールモデルを示すといった観点も取り入れていきたい。

<2> 経済分野における女性の活躍促進チームについて

- ・前期の起業支援チームの活動がこのチームに含まれることになったが、起業の観点はしっかり続けてほしい。特に地方だと、女性の起業家の場合、信用されず苦勞する例がまだまだある。どうしてうまくいっているのかという事例のお話を伺いたい。
- ・リケジョの関係で、会社で働く女性エンジニア、技術専門職等で、管理職の方の話を伺いたい。
- ・前期のチーム活動を通じて、女性の活躍促進には男性の意識改革なくしてはできないと実感した。これに力を入れるべき。現状、組織の中で決定権を持つのは男性が多いため、男性の意識改革がなされないと、意識の強い女性がいてもつぶされてしまう。
- ・農業分野では、女性の働き方に関する課題が多い一方、女性が経営に参画しているところ

は伸びている。上場企業だけでなく、1次・2次産業に対しても働きかけをしてほしい。

- ・経済分野における女性のエンパワーメントについては、世界的にも議論されている。G7でもロードマップが出されており、日本でも枠組みとしてどう取り入れるかが重要である。女性活躍企業のインデックスが組成され、ESG投資の観点から、対象企業に投資資金が集まっている。この傾向は日本にもいずれ訪れると思う。
- ・20～30代の女性自身が、女性活躍を喜んでいないとすることがある。女性としての幸せや安定と引き換えにしないと、仕事での成功や起業はできないという固定観念があるため、そこを和らげ、どちらも手に入ることを伝えることができるとうい。
- ・昔ながらの企業のトップは、女性活躍推進といっても、そのように女性社員を育てていないと言う。どのようにしたらそのような女性を短期でマネジメントできるようになるかを理解してもらえよう、働きかける必要がある。
- ・一人親や子供の貧困は、親の貧困の問題、多くは女性の貧困の問題であって、男女共同参画の問題である。この意識を持ち、大きな経済損失となっていることを地域、各分野の人達に伝えるべきである。また、パンフレット「ひとりひとりが幸せな社会のために」も活用して理解を求めつつ、経済産業省とも連携して取り組むべき。
- ・女性の活躍促進により業績、収益が上がった事例を、資金繰りや人材不足と戦っている経営者に積極的に共有できると効果的である。

<その他>

- ・国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業について、企画委員会で審査を行っているが、委員の意見がよく反映される仕組みにしてほしい。企画委員会で出たキーワードを事業に組み込む、企画委員がアドバイザーとして事業をブラッシュアップするなどが考えられる。

(男女共同参画推進連携会議 全体会議について)

資料3に基づき、事務局より説明を行った。

(その他)

事務局より、参考資料2に基づき、パンフレット「ひとりひとりが幸せな社会のために」の平成29年版完成の報告を、参考資料3に基づき、平成29年度「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」の実施についての報告を行った。

以上